



シラバス

授業科目及講義内容

共立高等看護学院

2023年度45期生 1年次

1年次 評価科目及び評価方法

(2023年度)

	評価科目	単位 (時間数)	評価方法	評価時期			評価科目	単位 (時間数)	評価方法	評価時期	
				前期	後期					前期	後期
基礎分野	物理学	1(20)	筆記試験	○		専門分野	看護学入門	2(45)	総合評価	○	
	哲学	1(30)	レポート		○		ナースクリエイティブ	1(30)	総合評価		○
	心理学	1(30)	筆記試験	○			看護理論	1(15)	総合評価	○	
	社会の中の倫理	1(30)	レポート		○		健康的な日常生活を促進する援助技術	2(60)	筆記試験	○	
	平和と人権	1(30)	総合評価	○			快適に過ごすための援助技術	1(30)	筆記試験	○	
	芸術	1(15)	総合評価	○			フィジカルアセスメント	1(30)	筆記試験	○	
	野外活動 I	1(20)	総合評価	○	(○)		看護過程	1(15)	総合評価		○
専門基礎分野	看護生物学	1(15)	筆記試験	○			看護の探究	2(45)	総合評価		○
	解剖生理学 I	1(30)	筆記試験	○			私たちの地域と生活	1(30)	総合評価		○
	解剖生理学 II	1(30)	筆記試験	○			地域の暮らしを支援する法と制度	1(30)	総合評価		○
	解剖生理学 III	1(20)	筆記試験	○			地域で生活する人の心の理解	1(15)	筆記試験		○
	解剖生理学 IV	1(30)	筆記試験	○			健康を害した人への看護 I	2(45)	筆記試験		○
	解剖生理学演習	1(15)	総合評価	○			老年期にある人の理解	1(30)	筆記試験		○
	生化学	1(15)	筆記試験		○		子どもの人権と社会	1(15)	筆記試験		○
	病気のしくみ	1(15)	筆記試験		○	対人関係論	1(30)	総合評価	○		
	疾病論 I	1(30)	筆記試験		○	医療安全	1(15)	筆記試験		○	
	疾病論 II	1(30)	筆記試験		○	看護情報とICT	1(15)	総合評価		○	
	疾病論 III	1(30)	筆記試験		○	人間の発達と看護	1(15)	筆記試験	○		
	微生物学	1(30)	筆記試験	○		臨地実習	基礎看護学実習 I	1(45)	総合評価	○	
	臨床検査と放射線検査	1(30)	筆記試験		○		基礎看護学実習 II	1(45)	総合評価	○	
医療の歴史と発展	1(15)	総合評価	○		基礎看護学実習 III		2(90)	評価表		○	
					老年看護学実習 I		1(45)	総合評価	○		

		単位	科目
講義	筆記試験	25単位	23科目
	レポート評価	2単位	2科目
	総合評価	16単位	14科目
臨地実習		5単位	4科目
1年次合計		48単位	43科目



シラバス

授業科目及講義内容

共立高等看護学院

2023年度44期生 2年次



2年次 評価科目及び評価方法

(2023年度)

	評価科目	単位 (時間数)	評価方法	評価時期			評価科目	単位 (時間数)	評価方法	評価時期		
				前期	後期					前期	後期	
基礎分野	英語	1(15)	筆記試験	○		専門分野	ウイメンヘルス	1(30)	筆記試験	○		
	世界の言語	1(15)	総合評価	○			周産期にある人の理解	1(30)	筆記試験	○		
	野外活動2	1(20)	総合評価	○	(○)		周産期にある人への看護	1(30)	筆記試験	○		
専門基礎分野	疾病論IV	1(30)	筆記試験	○			国際看護・災害看護	1(30)	総合評価		○	
	薬理学	1(30)	筆記試験	○		領域横断科目	終末期と看護	1(15)	総合評価	○		
	ヘルスプロモーション	1(15)	総合評価	○			薬物療法と看護	1(15)	筆記試験	○		
専門分野	治療処置に伴う援助技術	1(30)	筆記試験	○			リハビリテーションと看護	1(15)	筆記試験	○		
	臨床判断演習	1(30)	総合評価		○	臨地実習	老年看護学実習Ⅱ	2(90)	評価表		○	
	地域看護	1(30)	レポート評価	○			成人看護学実習Ⅰ	2(60)	総合評価	○		
	成人期にある人の理解	1(30)	総合評価	○			成人看護学実習Ⅱ	2(90)	評価表		○	
	成人期にある人の疾病予防と看護	1(15)	総合評価	○			小児看護学実習Ⅰ	1(30)	総合評価	○		
	健康を害した人への看護Ⅱ	1(30)	筆記試験	○			小児看護学実習Ⅱ	1(45)	総合評価		○	
	周手術期看護・がん看護	1(30)	筆記試験		○		母性看護学実習	2(75)	総合評価		○	
	老年期にある人への看護	1(30)	筆記試験	○								
	子どもの病気	1(30)	筆記試験	○								
	子どもの病気と障がいに対する看護	1(30)	筆記試験		○							

		単位	科目
講義	筆記試験	14単位	14科目
	レポート評価	1単位	1科目
	総合評価	8単位	8科目
臨地実習		10単位	6科目
2年次合計		33単位	29科目

科目名	平和と人権		授業形式	講義
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	押領司民 浅川保 白神優理子 田中大輔 向山三樹	実務経験と 関連資格	押領司(看護専任教員 看護師 看護学博士 病院勤務歴6年) 浅川(山梨平和ミュージアム館長) 白神(弁護士) 田中(南アルプス市教育委員会) 向山(元小学校教諭)	
<到達目標> 1. 平和と人権に関する講義やフィールドワーク、当事者からの講話を受け、平和や人権に関する自己の考えを深化させる。				
<授業内容> 第1回・2回 平和とは何か フィールドワークの概要説明 第3回・4回 フィールドワークの事前学習 第5回・6回 フィールドワーク①山梨県内の戦争遺跡を巡る(ロタコ, 七里岩など) 第7回・8回 フィールドワーク②山梨平和ミュージアムの見学 第9回・第10回 戦争体験者の話し 第11回～第12回 人権と日本国憲法, コロナ禍における人権問題 ジェンダーや雇用, 格差の拡大, 教育を受ける権利など 第13回 発表準備 第14・15回 発表				
<授業方法> プリントやウェブサイト, テキストを活用した講義のほか, 必要に応じてグループディスカッションや討論を行う。 フィールドワーク①は選択となる。				
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。				
<必携図書>				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
<履修上の注意点> ・フィールドワーク①②を欠席した場合は代替が必要となる。				
<学生に向けてのメッセージ> 平和はすべての人権の前提であり, また人権の尊重なくして真の平和はありません。平和と人権について, フィールドワークや身近な問題を通して, 自己の考えを深めましょう。				

科目名	芸術(音楽)	授業形式	講義
履修年次	1年 前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	星ひろ美	実務経験と 関連資格	ジュニア及びシニアの合唱指導 元小中学校音楽教師
<到達目標>			
芸術活動をとおして、豊かな感性・協調性・創造性・表現力を養う。			
<授業内容>			
第1回	ガイダンス	鑑賞と歌唱練習(学院歌ほか)	2時間
第2回～6回	歌唱練習	音楽の基礎(簡易な音楽理論)	鑑賞活動
第7回・8回	施設で実習(歌の発表・交流)		3時間
10時間			
<授業方法>			
授業は主として施設での歌の発表・交流に向けて歌唱活動を中心に行う。(併せて鑑賞も行う)場所は講堂。			
<成績評価の基準>			
授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。			
<必携図書>			
特にありません。			
<自己学習のポイント及び参考図書>			
<履修上の注意点>			
その都度楽譜が配布されるので楽譜をストックできる「ファイル(A4サイズ)」を用意する			
<学生に向けてのメッセージ>			
将来的に患者(相手)の心に寄り添える、心の声を聞く姿勢を身につけてほしい。			

科目名	芸術(美術)	授業形式	講義・実技
履修年次	1年 前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	竹下みさお	実務経験と 関連資格	中学校美術講師および非常勤講師 専門分野:油彩 木版画
<到達目標>			
<p>1. 芸術活動をとおして、豊かな感性・協調性・創造性・表現力を養う。</p> <p>2. 楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心を培い、心豊かな生活を創造していく意欲を育てる。</p>			
<授業内容>			
<p>第1回 「鉛筆や絵の具で描く」 身の周りの物を描く 2H</p> <p>第2・3回 「形と色を楽しむ」 粘土を使って野菜や果物を作る。本物そっくりに色もつけてみよう。 4H</p> <p>第4回 「モダンテクニックを楽しむ」 コラージュなど 2H</p> <p>第5・6回 「心の中の風景」 自分の内面を自由に表現してみよう 4H</p> <p>第7回 「額装・鑑賞」 3H</p>			
<授業方法>			
必要なものを用意し、内容説明後創作活動に入る。持ち物は授業前に連絡します。			
<成績評価の基準>			
授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。			
<必携図書>			
特にありません			
<自己学習のポイント及び参考図書>			
美術館に足を運んだり画集を見る。画材屋さんや本屋さんのアートコーナーに行くなど、芸術に触れる機会を増やす。			
<履修上の注意点>			
<p>授業に必要なもの:画用紙、文房具(のり、はさみなど) 鉛筆B,2Bなど</p> <p>水彩絵の具,アクリル絵の具など自分が持っている絵の具。</p> <p>*授業時に必要なものを忘れずに用意しておくこと。</p>			
<学生に向けてのメッセージ>			
楽しんで、リラックスして授業に参加してください。まだ知らない自分の可能性を拓けていきましょう。			

科目名	芸術(写真)	授業形式	講義・実技
履修年次	1年 前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	清水良二	実務経験と 関連資格	フォトグラファー
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術活動をとおして、豊かな感性・協調性・創造性・表現力を養う。 2. 基礎的な映像表現について学び、楽しく創造的な表現活動に取り組む。 3. 被写体が持つ魅力、その背景や文化に触れることで、多様な物の見方、考え方について学ぶ。 			
<p><授業内容></p> <p>第1回 写真がもつ芸術的な意味について考える 2H</p> <p>第2・3回 様々な作品を見て、自分の興味がある作品を知る。被写体が持つ魅力、その背景や文化に触れる 4H</p> <p>第4回 自分を表現する方法として、写真を撮る技術を学ぶ 2H</p> <p>第5・6回 写真を撮り、他者に表現する 4H</p> <p>第7・8回 それぞれの写真を鑑賞する 3H</p>			
<p><授業方法></p> <p>様々な作品を見て、写真の芸術的な意味について考えます。自分なりの表現で語ったり、他の人の感じ方、考え方に触れます。</p> <p>写真の基礎的な技術について学び、実際に自分で撮影します。</p> <p>自分が撮影した作品や他の人が撮影した作品を鑑賞します。</p>			
<p><成績評価の基準></p> <p>授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。</p>			
<p><必携図書></p>			
<p><自己学習のポイント及び参考図書></p> <p>芸術に触れる機会を増やす。自分が気に入った写真を集める。</p>			
<p><履修上の注意点></p> <p>授業に必要なもの: 写真が撮れるもの(スマートフォン、カメラなど)</p>			
<p><学生に向けてのメッセージ></p> <p>楽しんで授業に参加してください。写真はジャンルが広いので、人のポートレート、風景写真、旅行のスナップ写真、家族の記念写真など、色々なことに目を向ける授業にしていきたいと思います。自分の興味の可能性を広げて下さい。</p>			

科目名	野外活動1(キャンプ)	授業形式	講義、校外活動
履修年次	1年 前期/後期	単位数(時間数)	1単位(20時間)
授業担当者	川村協平	実務経験と 関連資格	NPO法人幼児野外教育研究会共同代表 山梨大学教育学部名誉教授(野外教育学)
<到達目標> 1. 野外活動を通じた身体活動、集団生活の体験から、自己の生活や心身の健康について考えることができる。 2. 自然との好ましい関わりを体験し、仲間と心地よい生活を送るために、自己と他者の役割を意識しながら行動することができる。			
<授業内容> 第1回 オリエンテーション(学内) 2H 第2回 キャンプもしくはスキーのオリエンテーション(学内) 2H 第3回～第4回 グループ活動(1日目) 6H 第5回～第6回 グループ活動(2日目) 6H 第7回～第8回 お好み活動(3日目) 4H			
<授業方法> 例年2泊3日のキャンプとスキーのいずれかを選択し野外活動を経験する。COVID-19感染拡大対策も踏まえ2泊3日の野外活動を経験する。キャンプの活動は班別行動となる。各班に1名のカウンセラーが付き活動を行う。場所は、丹波山、八ヶ岳、朝霧、高遠、武田の杜(健康の杜)等のキャンプ場のいずれかで行う。事前に「保健体育全体オリエンテーション」2H 「キャンプオリエンテーション」2Hがあるため、必ず参加すること。			
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。 キャンプ終了後、体験を振り返ってレポートを記載する。表紙に、テーマ・期生・No.・氏名を記入する。 レポートはA4サイズ800字以上、レポートテーマ「キャンプ前の私とキャンプ後の私」を指定の期日までに提出する。			
<必携図書>			
<自己学習のポイント及び参考図書> 事前学習として野外関連の文献を読むことを勧める。			
<履修上の注意点> 事前準備として健康管理・備品の準備を行う。 また安全のため、日常生活でできるウォーキングや自転車など、筋力トレーニングをしておく。			
<学生に向けてのメッセージ> 野外活動を通して、自然・仲間・自分自身のすばらしさを感じましょう。			

科目名	野外活動 I (スキー)	授業形式	講義、校外活動
履修年次	1年 後期	単位数(時間数)	1単位 (20時間)
授業担当者	川村協平	実務経験と 関連資格	NPO法人幼児野外教育研究会共同代表 山梨大学教育学部名誉教授 (野外教育学)
<到達目標>			
<p>1. 野外活動を通じた身体活動, 集団生活の体験から, 自己の生活や心身の健康について考えることができる。</p> <p>2. 自然との好ましい関わりを体験し, 仲間と心地よい生活を送るための自己の行動や役割を考えることができる。</p>			
<授業内容>			
<p>第1回 オリエンテーション(学内) 2H</p> <p>第2回 スキーのオリエンテーション(学内) 2H</p> <p>第3回～第4回 グループ活動(1日目) 6H</p> <p>第5回～第6回 グループ活動(2日目) 6H</p> <p>第7回～第8回 グループ活動(3日目) 4H</p>			
<授業方法>			
<p>キャンプかスキーを選択し2泊3日, 野外活動を経験する。場所は志賀高原木戸池 横手山のスキー場で行う。</p> <p>活動は1・2学年の縦割りでスキーのレベルに応じた班で行う。班には1名のカウンセラーがつく。</p> <p>5月に「野外活動全体オリエンテーション」2H 12月に「スキーオリエンテーション」2Hがあるため, 必ず参加すること。</p>			
<成績評価の基準>			
<p>授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。</p> <p>スキー終了後, 体験を振り返ってレポートを記載する。表紙に, テーマ・期生・No.・氏名を記入する。</p> <p>レポートはA4サイズ800字以上, 指定の期日までに提出する。</p>			
<必携図書>			
特にありません			
<自己学習のポイント及び参考図書>			
事前学習として野外関連の文献を読むことを勧める。			
<履修上の注意点>			
<p>スキーに向けて健康管理をすること。スキーオリエンで説明された備品の準備を各自ですすめる。</p> <p>また安全のため, 日常生活でできるウォーキングや自転車など, 筋力トレーニングをしておく。</p>			
<学生に向けてのメッセージ>			
野外活動を通して, 自然・仲間・自分自身のすばらしさを感じましょう。			

科目名	病気のしくみ		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	病院医師	実務経験と 関連資格	甲府共立病院 病理医	
<到達目標> 1.解剖生理学, 生化学の学習を基礎に, 疾病の病態を化学的に捉えることができる。 2.疾病の病態が患者にどのような症状として現れてくるのか学ぶことができる。 3.実際の病変を見ながら、病気のしくみについて理解を深める。				
<授業内容> 第1回 第1章「看護と病理学」「病因論」「死因別死亡数の統計から」 2H 第2回 第2章「細胞・組織の障害と修復、炎症」 2H 第3回 第3章「充血とうっ血」「出血と止血」 2H 第4回 標本館見学 2H 第5回 第5章「血栓症」「塞栓症」「虚血と梗塞」「ショック」「浮腫(水腫)」 2H 第6回 第6章「代謝障害」 2H 第7回・第8回 第9章「腫瘍」 3H				
<授業方法> 講義はすべて教室で行います。				
<成績評価の基準> 筆記試験(90%)と、標本館見学のレポート(10%)で評価する。				
<必携図書> ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進1 病理学, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> ・解剖生理学 I・IIの授業を復習しながら, 理解を深めていく。 ・医学映像セレクトの視聴: 事前学習や復習に活用するとより効果的な学びとなる。 ①「看護教育シリーズ 看護のための病態生理とアセスメント<呼吸・循環> 浮腫・脱水」 ②「看護教育シリーズ 看護のための病態生理とアセスメント<呼吸・循環> ショック」				
<履修上の注意点> ・復習および理解の浅かった事柄などを, 参考書で調べて理解を深めること。				
<学生に向けてのメッセージ> 将来看護師として働くために多くの病気の知識が必要ですが, ただ知識の丸暗記では理解することは難しいです。それぞれの病気についてなぜ? どうして? と疑問を持ち, 原因や病気の成り立ちを追求していくことが大切です。みなさんがこれから求められる「科学的に理解する」の根幹をともに学んでいきましょう。				

科目名	疾病論 I		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	三井一義 森澤朋子 滝瀬康洋	実務経験と 関連資格	三井一義 (甲府共立病院 整形外科医) 森澤朋子 (山梨病院 呼吸器内科医) 滝瀬康洋 (甲府共立病院 神経内科医)	
1. 整形外科疾患, 脳神経疾患, アレルギー性疾患, 感染症, 膠原病の症状, 病態生理, 経過, 検査, 治療法について学ぶ。				
<授業内容>				
運動器疾患と外科的治療 講師:三井一義 10H				
第1回 看護を学ぶにあたって 2H				
第2回 骨について 2H				
第3回 症状と病態生理 2H				
第4回・5回 疾患の理解 4H				
アレルギー性疾患・感染症・膠原病 講師:森澤朋子 8H				
第5・6回 アレルギー性疾患・膠原病 4H				
第7回 感染症1 感染症の一般 2H				
第8回 感染症2 主な感染症(エイズ・結核) 2H				
脳神経疾患 講師:滝瀬康洋 12H				
第9回 脳の解剖、運動神経 神経の通り方、伝わり方 2H				
第10回・11回 多発性神経炎からヘルペス脳炎 髄膜炎 てんかん 4H				
第12回・13回 脳神経疾患 認知症 脳血管疾患 4H				
第14回 神経疾患の診断 脱髄疾患 変性疾患 2H				
<授業方法>				
教科書及び授業で配布する資料を使い、パワーポイントに沿って講義する。				
<成績評価の基準>				
100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書>				
・系統看護学講座 専門分野 成人看護学7 脳・神経, 医学書院				
・系統看護学講座 専門分野 成人看護学6 内分泌・代謝, 医学書院				
・系統看護学講座 専門分野 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症, 医学書院				
・系統看護学講座 専門分野 成人看護学10 運動器, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
・改訂 目で見えるからだのメカニズム, 医学書院				
・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学, 医学書院				
<履修上の注意点>				
・復習および理解の浅かった事柄などを, 参考書で調べて理解を深める。				
・今までに学習した「解剖生理学」などの専門基礎分野に関する授業を復習して授業に臨む。				
・「運動器疾患と外科的治療 講師:三井一義」の授業では, 成人看護学⑩「運動器」医学書院 を忘れずに持ってくること。				
<学生に向けてのメッセージ>				
慢性的な経過をたどり, 長期にセルフケアを必要とする機能障害(内分泌・代謝機能障害, 脳・神経, 運動機能障害)をもつ患者の病態や治療による生活への影響を理解し, 必要な看護援助を判断するためのアセスメント方法と, 健康問題解決のための具体的看護支援について学習しましょう。				

科目名	疾病論Ⅱ		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	内藤恵一他外科医師 病院看護師	実務経験と 関連資格	病院医師 病院看護師	
<到達目標> 1.呼吸器疾患と循環器疾患、血液疾患の症状、病態生理、経過、検査、治療法について学ぶ。				
<授業内容> 呼吸器疾患 12H 講師:病院医師 第1回 呼吸器の機能と構造 2H 第2回・第3回 検査と治療処置 気管支内視鏡検査, 生検, 呼吸機能検査 酸素療法 4H 第4回・第5回 疾患の理解(病態, 診断, 治療の特徴を含む) インフルエンザ, 肺炎, 間質性肺炎, 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患, 肺塞栓症, 呼吸不全など 4H 第6回 外科的治療が必要な疾患の理解(病態, 検査, 診断の特徴を含む) 肺疾患 2H 循環器疾患 12H 講師:病院看護師・医師 第7回・第8回 疾患の理解(病態, 検査, 診断, 治療の特徴を含む) 虚血性心疾患、不整脈、動脈・静脈疾患 4H 第9回・第10回 疾患の理解(病態, 検査, 診断, 治療の特徴を含む) 心不全、血圧異常、心筋疾患 4H 第11回・第12回 外科的治療が必要な疾患の理解(病態, 検査, 診断の特徴を含む) 虚血性心疾患、弁膜症 4H 血液疾患 6H 講師:病院医師 または 病院看護師 第13回 血液の生理と造血のしくみ 2H 第14回 検査・診断と症候・病態生理(貧血、白血球増加症・白血球減少症・脾腫・リンパ節腫脹・出血性素因) 2H 第15回 疾患の理解(病態, 検査, 診断, 治療の特徴を含む) 2H				
<授業方法> 講義はすべて教室でパワーポイントを使用して行います。				
<成績評価の基準> 100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学, 医学書院 ・改訂 目で見るからだのメカニズム, 医学書院 ・系統別看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器, 医学書院 ・系統別看護学講座 専門分野 成人看護学3 循環器, 医学書院 ・系統別看護学講座 専門分野 成人看護学4 血液・造血器, 医学書院 ・系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護各論, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> 医学映像セレクトの視聴 呼吸器疾患 「看護 生体のしくみ(第3版)Vol.12 呼吸のしくみ」「医学 目で見る病気(第3版)Vol.10呼吸器系の疾患」 循環器疾患 「看護 生体のしくみ(第3版)Vol.10、Vol.11 循環のしくみ」 「医学 目で見る病気(第3版)Vol.8循環器系の疾患」 血液疾患 「看護 生体のしくみ(第3版)Vol.9 血液のしくみ」				
<履修上の注意点> 復習および理解の浅かった事柄などを、参考書で調べて理解を深めること。				
<学生に向けてのメッセージ> 将来看護師として働くために多くの病気の知識が必要ですが、ただ知識の丸暗記では理解することは難しいです。それぞれの病気についてなぜ?どうして?と疑問を持ち、原因や病気の成り立ちを追求していくことが大切です。みなさんがこれから求められる「科学的に理解する」の根幹をともに学んでいきましょう。				

科目名	疾病論Ⅲ		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	内藤恵一他病院医師	実務経験と 関連資格	病院医師	
<到達目標> 1. 消化器疾患のプロセスと病態生理, 特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について理解する。				
<授業内容> 消化器疾患と治療 16H 講師: 消化器内科医 第1回・2回 消化器総論 消化器の構造と機能 病態生理と症状 検査と治療 第3回・4回 消化器各論 食道, 胃, 小腸, 大腸 主な機能とその障害 第5回・6回 消化器各論 肝臓, 胆嚢 主な機能とその障害 第7回・8回 消化器各論 膵臓, 腹膜腔, 腹膜, 腸間膜 主な機能とその障害 消化器疾患の外科的治療 14H 講師: 外科医 第9回・10回 外科的治療の総論 食道・胃の疾患の外科的治療 4H 講師: 外科医 第11回・12回 大腸・虫垂疾患、小腸疾患の外科的治療 4H 講師: 外科医 第13回 肺疾患の外科的治療 2H 講師: 外科医 第14回・15回 胆のう・膵臓・肝臓疾患の外科的治療 4H 講師: 外科医				
<授業方法> 講義はすべて教室で教科書やパワーポイントを使用して行います。				
<成績評価の基準> 100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学, 医学書院 ・堺章 改訂 目で見るからだのメカニズム, 医学書院 ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進1 病理学, 医学書院 ・系統別看護学講座 専門分野 成人看護学5 消化器, 医学書院 ・外科的治療: 1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> ・医学映像セレクトの視聴 消化器疾患 「看護 生体のしくみ(第3版) Vol.13.14 消化吸収のしくみ1, 2」 「医学 目で見る病気 Vol.11, 12 消化管の疾患、肝・胆・膵の疾患」				
<履修上の注意点> ・疾病論は正常な人体の構造と機能の障害についてみる科目です。 本科目の授業に合わせて「消化・吸収に関わる人体の構造と機能」の内容を復習しておきましょう。				
<学生に向けてのメッセージ> 看護実践に必要な疾病の成り立ちの基礎知識を学習していきます。 また疾病の生物学的基礎を学び、患者の訴えや治療に対する反応と関連づける習慣を養っていきます。 正常な人体の構造と機能を学習したあとで、疾病によってそれらがどのように変化するかしっかり学んでいきましょう。				

科目名	臨床検査と放射線検査		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	臨床検査技師 臨床放射線技師	実務経験と 関連資格	病院・診療所勤務の検査技師及び放射線技師	
<到達目標>				
<p>1.健康回復を支援するための特徴的な治療, 検査について理解し, 看護の必要性を学ぶ</p> <p>2. 各疾患に関連する検査法について理解し, 検査における看護の役割を学ぶ</p> <p>1臨床検査 2放射線医学</p>				
<授業内容>				
<p>臨床検査 講師: 臨床検査技師 20H</p> <p>第1回 第1・2章 臨床検査とその役割 臨床検査の流れと看護の流れ 講師:臨床検査技師 2H</p> <p>第2回 第4章 血液学的検査 講師:病院臨床検査技師 2H</p> <p>第3回 第5章 化学検査 講師:病院臨床検査技師 2H</p> <p>第4回 第6章 免疫・血清学検査 講師:病院臨床検査技師 2H</p> <p>第5回 第3章 一般検査(尿検査 便検査 他) 講師:病院臨床検査技師 2H</p> <p>第6回 第7章 内分泌学的検査 講師:病院臨床検査技師 2H</p> <p>第7回 第8章 微生物学的検査 講師:病院臨床検査技師 2H</p> <p>第8回 第10章 生理機能検査 講師:臨床検査技師</p> <p>第9回 第9章 病理検査 2H 講師:臨床検査技師</p> <p>第10回 病院検査室見学 講師:病院臨床検査技師 2H</p> <p>放射線医学 講師:放射線技師 10H</p> <p>第11回・第12回 序章 放射線医学の成り立ちと意義 医療における放射線医学の役割 4H 講師:臨床放射線技師</p> <p>第13回・第14回 画像診断と看護 X線診断・CT・MR 4H 講師:臨床放射線技師</p> <p>第15回 核医学検査 血液造影 放射線治療 放射線による障害と防護 2H 講師:臨床放射線技師</p>				
<授業方法>				
<p>第9回は病院見学の前に病院会議室で講義となります。授業はパワーポイントを使用した講義形式である。</p> <p>第10回の病院検査室見の前に「検査室見学オリエンテーション」を行うので必ず受けること。</p> <p>病院検査室見学後にはレポートと提出があるので「検査室見学オリエンテーション」で確認すること。</p>				
<成績評価の基準>				
100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書>				
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床検査 ;系統別看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院 ・放射線医学; 系統別看護学講座 別巻 臨床放射線医学, 医学書院 				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な解剖生理や疾患の知識も重要と成るため, これまでの解剖生理学, 病理学, 成人臨床看護などの授業内容を振り返り授業にのぞみましょう。 				
<履修上の注意点>				
<ul style="list-style-type: none"> ・講師が複数で担当するため講義資料はファイリングし講師と授業内容がわかるようにしておきましょう。 				
<学生に向けてのメッセージ>				
<p>検査の知識は患者さんの病態理解を行ううえで欠かせない知識です。臨床で活躍する専門職から, 得る貴重な学びを大いに吸収し, 知識の幅を広げていくことを願っています。</p>				

科目名	看護学入門		授業形式	講義・演習
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	2単位(45時間)
授業担当者	河西光子 梶原奈津子 宮川江里 文珠紀久野	実務経験と 関連資格	河西(副学院長 看護師 病院勤務歴8年) 梶原(看護専任教員 看護師 病院・診療所勤務8年) 宮川(看護専任教員 看護師 病院・訪問看護ステーション勤務歴8年) 文珠紀久野(元山梨県立大学看護学部教授)	
<到達目標>				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象となる人間を理解し、権利としての健康について学ぶ。 2. 看護の変遷をたどりながら、看護の本質を学び、現代社会の患者・利用者の多様な医療ニーズをとらえた看護者としての倫理観を学ぶ。 3. 看護技術は専門的な知識に基づいて、対象の安全・安楽、自立・個別性を旨とした意図的・直接的な看護行為であることを学ぶ。 4. 看護における「技術」の意味を学び、自己の看護技術を修得し向上することができる。 5. カウンセリング理論を理解し、カウンセリング技法を活用できる 				
<授業内容>				
看護の対象理解・看護技術 32H 講師:河西 梶原 宮川				
第5回～第8回 看護とは何か 看護の歴史、看護における倫理と法、専門職としての看護 河西先生担当 8H				
第9回～第12回 人間科学としての看護学、看護実践における主要概念、看護の役割と機能 8H 講師:梶原奈津子				
第13回・第14回 技術とは、看護技術の特徴・範囲、看護技術を適切に実践するための要素、その発展と修得 4H 講師:宮川江里				
第15回・第16回 基礎看護技術のまとめおよびグループ演習 4H 講師:宮川江里				
第17回・第18回 技術チェック(ベッドメイキング、清潔、排泄援助) 4H 講師:宮川江里				
第19回・第20回 技術チェック(バイタルサイン測定) 4H 講師:宮川江里				
カウンセリング理論と技法 13H 講師:文珠紀久野				
第1回 カウンセリングとは何か、カウンセリングの基本概念・カウンセリングの過程 4時間				
第2回 カウンセリングの主要理論(来談者中心療法・認知行動療法等)・カウンセリングの基本技法 4時間				
第3回 演習 相手の話を聴く技法(1) 2時間				
第4回 演習 相手の話を聴く技法(2) 3時間				
<授業方法>				
<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習で形式で行います。演習ではロールプレイを実施する。 ・看護技術チェック 技術テストを受ける。合格できなかった者は実習前までに技術の再チェックを受ける。 ・カウンセリングは「自分への理解」が基礎となります。「自己理解ノート」を使って理解を深めます。 ・1対1、グループでの関わりを通して理解を深めます。 				
<成績評価の基準>				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。 ・カウンセリング理論と技法では、授業態度(授業ごとに「今日のふりかえり」を記入し、その記入状況で判断する)(10%) テスト(70%)・演習を通したレポート(20%)。 				
<必携図書>				
<ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 基礎看護学1 看護学概論, メジカルフレンド社 ・日本看護協会監修;看護者の基本的責務, 日本看護協会編 ・F.ナイチンゲール;看護覚え書～看護であること, 看護でないこと～, 現代社 ・系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 I, 医学書院 「3年生 春のケースレポート」 				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
<ul style="list-style-type: none"> ・参考にするとよい資料や本は、授業で紹介します。ぜひ読んでおいてください。心理学における『性格』『心の構造』『ストレス』の内容が基礎となりますので、十分復習しておいて下さい。 				
<履修上の注意点>				
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回～第9回は1.教科書の章に沿って授業を進めます。また、2,3.も授業で説明をします。 事前に目を通しておくと良いです。 ・技術チェックは、評価基準をあらかじめ提示します。各自技術練習をして臨みましょう。 				
<学生に向けてのメッセージ>				
<p>看護って何だろう、看護師は何をする人なのか等、看護を学ぶ上で土台になる単元です。講義や実習での学びを通して看護とは何かを一緒に考えていきましょう。</p> <p>看護技術の追求は看護の永遠のテーマです。看護技術について一緒に考えてみましょう。</p>				

科目名	看護学入門		授業形式	講義・演習
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	2単位(45時間)
授業担当者	河西光子 梶原奈津子 宮川江里 文珠紀久野	実務経験と 関連資格	河西(副学院長 看護師 病院勤務歴8年) 梶原(看護専任教員 看護師 病院・診療所勤務8年) 宮川(看護専任教員 看護師 病院・訪問看護ステーション勤務歴8年) 文珠紀久野(元山梨県立大学看護学部教授)	
<到達目標>				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象となる人間を理解し、権利としての健康について学ぶ。 2. 看護の変遷をたどりながら、看護の本質を学び、現代社会の患者・利用者の多様な医療ニーズをとらえた看護者としての倫理観を学ぶ。 3. 看護技術は専門的な知識に基づいて、対象の安全・安楽、自立・個別性を目指した意図的・直接的な看護行為であることを学ぶ。 4. 看護における「技術」の意味を学び、自己の看護技術を修得し向上することができる。 5. カウンセリング理論を理解し、カウンセリング技法を活用できる 				
<授業内容>				
看護の対象理解・看護技術 32H 講師:河西 梶原 宮川				
第5回～第8回 看護とは何か 看護の歴史、看護における倫理と法、専門職としての看護 河西先生担当 8H				
第9回～第12回 人間科学としての看護学、看護実践における主要概念、看護の役割と機能 8H 講師:梶原奈津子				
第13回・第14回 技術とは、看護技術の特徴・範囲、看護技術を適切に実践するための要素、その発展と修得 4H 講師:宮川江里				
第15回・第16回 基礎看護技術のまとめおよびグループ演習 4H 講師:宮川江里				
第17回・第18回 技術チェック(ベッドメイキング、清潔、排泄援助) 4H 講師:宮川江里				
第19回・第20回 技術チェック(バイタルサイン測定) 4H 講師:宮川江里				
カウンセリング理論と技法 13H 講師:文珠紀久野				
第1回 カウンセリングとは何か、カウンセリングの基本概念・カウンセリングの過程 4時間				
第2回 カウンセリングの主要理論(来談者中心療法、認知行動療法等)・カウンセリングの基本技法 4時間				
第3回 演習 相手の話を聴く技法(1) 2時間				
第4回 演習 相手の話を聴く技法(2) 3時間				
<授業方法>				
<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習で形式で行います。演習ではロールプレイを実施する。 ・看護技術チェック 技術テストを受ける。合格できなかった者は実習前までに技術の再チェックを受ける。 ・カウンセリングは「自分への理解」が基礎となります。「自己理解ノート」を使って理解を深めます。 ・1対1、グループでの関わりを通して理解を深めます。 				
<成績評価の基準>				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。 ・カウンセリング理論と技法では、授業態度(授業ごとに「今日のふりかえり」を記入し、その記入状況で判断する)(10%) テスト(70%)・演習を通したレポート(20%)。 				
<必携図書>				
<ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 基礎看護学1 看護学概論, メジカルフレンド社 ・日本看護協会監修;看護者の基本的責務, 日本看護協会編 ・F.ナイチンゲール;看護覚え書～看護であること, 看護でないこと～, 現代社 ・系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 I, 医学書院 「3年生 春のケースレポート」 				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
<ul style="list-style-type: none"> ・参考にするよい資料や本は、授業で紹介します。ぜひ読んでおいてください。心理学における『性格』『心の構造』『ストレス』の内容が基礎となりますので、十分復習しておいて下さい。 				
<履修上の注意点>				
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回～第9回は1.教科書の章に沿って授業を進めます。また、2,3も授業で説明をします。 事前に目を通しておくと良いです。 ・技術チェックは、評価基準をあらかじめ提示します。各自技術練習をして臨みましょう。 				
<学生に向けてのメッセージ>				
<p>看護って何だろう、看護師は何をする人なのか等、看護を学ぶ上で土台になる単元です。講義や実習での学びを通して看護とは何かを一緒に考えていきましょう。</p> <p>看護技術の追求は看護の永遠のテーマです。看護技術について一緒に考えてみましょう。</p>				

科目名	看護理論	授業形式	講義 演習
履修年次	1年 前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	藤本未央	実務経験と 関連資格	看護専任教員 保健師 病院勤務歴5年
<到達目標>			
<p>1.代表的な看護理論とその概念を学び、科学的に看護を展開するための考え方を身につけ看護実践に理論的な根拠がもてる力を養う。</p> <p>2.代表的な看護理論を学ぶことで、看護とは何かという問いに関する自己の考えを持つことができる。</p>			
<授業内容>			
第1回	理論の定義, 理論の種類, 歴史と動向	2H	
第2回～第6回	代表的な看護理論家(ヘンダーソン, ロイ, ウィーデンバック, オレム) 毎にグループに別れ,		
第5回	成人期の発達と看護	2H(成人看護領域担当教員)	
第7回・第8回	全体発表 発表では次の内容を含める	4H	
	1 理論の前提, 概念, 命題		
	2 基礎看護学実習 I で受け持った事例の紹介(理論の枠組みで整理する)		
	3 理論の活用可能性や限界		
	4 学んだことや看護とは何か考えたこと		
<授業方法>			
<p>第1回は、パワーポイントを用いた講義形式で進める。</p> <p>第2回～第6回は、グループ毎に別れて、担当教員の指導を受けつつ、演習を行う。</p> <p>第7回・第8回はグループの学びをパワーポイントを用いて発表する。</p>			
<成績評価の基準>			
授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。			
<必携図書>			
<ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 基礎看護学1 看護学概論, メジカルフレンド社 ・勝又正直;初めての看護理論 第二版, 医学書院 			
<自己学習のポイント及び参考図書習>			
<ul style="list-style-type: none"> ・アーネスティン・ウィーデンバック著;臨床看護の本質 改訳第2版, 現代社 ・ヴァージニア・ヘンダーソン著;看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 ・ドロセアE.オレム著;オレム看護論 看護実践における基本概念 第4版, 医学書院 ・シスター・カリスト・ロイ著;ロイ適応看護モデル序説 第2版, へるす出版 ・F.ナイチンゲール;看護覚え書～看護であること, 看護でないこと～, 現代社 ・川島みどり;きり看護, 医学書院 			
<履修上の注意点>			
<ul style="list-style-type: none"> ・看護理論の発表は学術用語を用いて行いましょう。 ・グループの考察は, 学習した理論の内容と基礎看護学実習 I で受け持った患者を照らし合わせて考えてください。 			
<学生に向けてのメッセージ>			
本単元を通して, 理論的な看護実践を行うための基本的な力を養うことができると良いと願っています。			

科目名	健康的な日常生活を促進する援助技術		授業形式	講義 校内実習	
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	2単位(60時間)	
授業担当者	坂井美紗 酒井茉莉耶 渡邊 裕	実務経験と 関連資格	坂井 (看護専任教員 看護師 病院勤務歴4年) 酒井 (看護専任教員 看護師 病院勤務歴7年) 渡邊 (看護専任教員 看護師 病院勤務歴10年)		
<到達目標>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事・排泄・清潔が人間の生命活動及び生活行動であることを理解できる。 2. 日常生活行動のアセスメントに必要な情報を理解でき、援助の必要性が判断ができる。 3. 疾病や障害により食生活に支障が出た場合の看護について理解することができる。 4. 安全・安楽・自立に配慮した根拠のある技術が実施できる。 					
<授業内容>					
〔食事の援助技術〕 16H 講師:渡邊 裕					
第1回・第2回 食事援助の基礎知識 4H					
第3回・第4回 食事療法を受けている患者の援助 4H					
第5回・第6回 直接訓練と間接訓練 2H 食事支援に対する体験(校内実習) 2H					
第7回・第8回 食事支援方法について考えよう 4H (校内実習)					
〔排泄の援助技術〕 14H 講師:酒井茉莉耶					
第1回 排泄の基礎知識 2H					
第2回・第3回 排泄援助に必要な視点,排尿・排便のアセスメントと援助の判断,排泄の正常異常を知る 4H 排泄援助の実際 対象者に合った排泄援助の検討方法,排泄の環境と使用物品,排泄ケア(導尿・浣腸・摘便)					
第4回・第5回 床上排泄援助(おむつ交換:基本編) 4H					
第6回・第7回 床上排泄援助(おむつ交換:応用編) 4H					
〔清潔の援助技術〕 30H 講師:坂井美紗					
第1回・第2回 清潔の基礎知識 清潔の意義を理解する,皮膚の構造と機能,援助計画立案の方法,入浴・全身清拭の方法 4H					
第3回・第4回 清潔・衣生活に関する援助の方法(更衣・手浴・足浴・洗髪・陰部洗浄), 口腔の構造と口腔ケアの方法 4H					
第5回 根拠を意識した援助計画立案の実践(グループワーク) 2H					
第6回・第7回 全身清拭の技術を学ぶ(校内実習) 4H					
第7回・第8回 更衣の援助技術を学ぶ(校内実習) 4H					
第9回・第10回 足浴・手浴の援助技術を学ぶ(校内実習) 4H					
第11回・第12回 洗髪の援助技術を学ぶ(校内実習) 4H					
第13回・第14回 陰部洗浄の援助技術を学ぶ(校内実習) 4H					
<授業方法>					
講義は教室でパワーポイントを使用して行う。解剖生理学Ⅰ・Ⅱの授業を復習して授業に臨むこと。 食事の第6.7.8回,排泄の第4~7回,清潔の第5~14回は実習室で校内実習を行う。					
<成績評価の基準>					
食事(25点)排泄(25点)清潔(50点)の3科目で合計100点の筆記試験で評価する。 食事の援助技術では、筆記試験(20点)と校内実習を通したレポート(5点)で評価する。(全1回、各5点) 清潔の援助技術では、筆記試験(40点)と校内実習を通したレポート(10点)で評価する。(全5回、各2点)					
<必携図書>					
・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 ・看護技術プラクティス, Gakken					
<自己学習のポイント及び参考図書習> 事前学習(必修) 医学映像セレクトの視聴					
「看護 実践!看護技術シリーズ Vol.4日常生活の援助技術編 食事の介助」					
「看護 実践!看護技術シリーズ 診療にかかわる技術編 排尿・排便の援助」					
「看護 実践!看護技術シリーズ 診療にかかわる技術編 浣腸・摘便」					
「看護 実践!看護技術シリーズ 診療にかかわる技術編」清潔に関連するすべての動画。					
<履修上の注意点>					
校内実習は、前半の講義を踏まえた内容となる。講義やレジメを振り返り、内容を理解して臨むこと。 校内実習は代替が必要な授業であり、やむを得ず欠席となった場合には代替授業を行う必要がある。					
<学生に向けてのメッセージ>					
健康的な日常生活を促進する上でみなさんに大切にしてほしいことを授業で伝えていきたいと思います。 またそれを踏まえ、校内実習や臨床実習に臨み、机上の学びを実践に活かせることも期待しています。					

科目名	快適に過ごすための援助技術		授業形式	講義 校内実習
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	渡邊 裕 酒井 茉莉耶	実務経験と 関連資格	渡邊 (看護専任教員 看護師 病院勤務歴10年) 酒井 (看護専任教員 看護師 病院勤務歴 7年)	
<到達目標>				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院している患者の安全と安楽を確保するための知識と援助技術を学ぶことができる。 2. 環境調整技術では、快適な療養環境を整えるための技術を獲得することが出来る 3. 活動・休息援助技術では、活動・休息・移動の基礎知識と実際を学ぶことができる。 				
<授業内容>				
〔環境調節技術〕 18H 講師:渡邊 裕				
第1回・第2回 援助の基礎知識 4H				
第3回・第4回 援助の実際 ベッド周囲の環境調整 4H				
第5回・第6回 シーツ交換の基礎 4H				
第7回・第8回 シーツ交換の応用 4H				
第9回 環境整備演習 2H				
〔運動・活動・休息・リラクゼーション〕 12H 講師:酒井 茉莉耶				
第10回・第11回 第4章 A 基本的活動の援助 4H				
第12回・第13回 体位変換, 移乗, 移送の実際(校内演習) 4H				
第14回・第15回 第4章 B 睡眠・休息の援助 4H				
<授業方法>				
第1回～第4回、第10回、第11回、第14回、第15回はパワーポイントを使用し講義形式で行う。				
第5回～第9回、第12、13回は実習室で校内演習を行う。				
<成績評価の基準>				
環境調整技術(55点), 運動・活動・休息・リラクゼーション(45点)の2科目で合計100点の筆記試験で評価する。				
環境調節技術では、筆記試験(40点)と校内実習を通したレポート(15点)で評価する。(全3回、各5点、)				
<必携図書>				
・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
患者さんの健康を守るためには環境を整える必要がある。そのためには、まず身の回りの環境に興味を持つことが大切である。看護学における環境とは、ナイチンゲールの「看護覚か書」を基礎に今もなお実践が行われている。				
校内実習で行う環境整備やシーツ交換は、患者さんが療養生活を送る環境を整える大変重要な技術である。				
授業時間に限らず、患者さんが快適に過ごせるベッド作りのための練習を重ね、技術を磨くこと。				
校内実習前には、授業資料はもとより、教科書上のQRコードを用いて動画を視聴し援助をイメージして授業に臨む。				
医学映像セレクトの視聴「看護 実践! 看護技術シリーズ NCND-03 日常生活の援助技術編 体位変換」				
<履修上の注意点>				
第5～9回の校内演習は代替が必要な授業であり、やむを得ず欠席となった場合には代替授業を行う必要がある。				
第12回～第13回の校内演習は代替が必要な授業であり、やむを得ず欠席となった場合には代替授業を行う必要がある。				
<学生に向けてのメッセージ>				
人間と環境の関係性について学び、環境を整えることが疾病を抱えて入院している患者にとってどのような影響があるか理解することができる。入院によって身の回りの環境が変化すること、療養環境が快適である必要性和そのために必要な技術を学びます。				
活動と休息の援助は、どんな状況の患者でも必要な看護援助であり、看護の基本的な技術である。				
7月の基礎実習から毎日活用できる看護技術であるため、練習を重ね技術習得することを期待している。				

科目名	フィジカルアセスメント	授業形式	講義 校内実習
履修年次	1年 前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	成島美里	実務経験と 関連資格	看護専任教員 病院勤務11年
<到達目標> 看護専門職としての的確な判断と適切な技術を提供するための基礎となるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ 1.バイタルサインをなぜ見るか、メカニズムと関連させて理解することができる 2.バイタルサインの正常、異常を理解することができる 3.バイタルサイン技術の基本を身につけることができる 4.フィジカルアセスメントの意義、技術について理解することができる 5.各症状を正確に観察するための方法を学ぶことができる。 6.看護における観察・記録。報告の意義と注意点について理解することができる			
<授業内容> 第1回・第2回 I.ヘルスアセスメントとは 4H II.健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1.問診 2.健康歴の聴取 3.情報整理 III.全体の概要 1.フィジカルアセスメントに必要な技術(A.視診 B.触診 C.聴診 D.打診) 第3回・第4回 III.全体の概要 4H 2.身体計測 A.体格 B.運動機能 3.バイタルサインの観察とアセスメント(A.体温 B.脈拍 C.血圧 D.呼吸 E.意識) 第5回・第6回 IV.校内実習 4H 1.バイタル測定の実施(A.体温 B.脈拍 C.血圧 D.呼吸 E.意識) 2.観察結果の記録と報告 第7回・第8回 V.看護における観察・記録・報告 4H 第9回・第10回 VI.系統的なフィジカルアセスメント(ケアにつなげるフィジカルアセスメント) 4H A.呼吸器 B.循環器 C.腹部・消化器 第11回～第13回 VII.各症状別の観察方法 演習 6H 「発熱」「脱水(熱中症)」「呼吸困難」「浮腫」「貧血」について、グループワークで観察の仕方を調べてみる。 発表会に向けた発表準備 第14回・第15回 発表会 4H 各グループで調べた各症状の観察方法をロールプレイで発表する。 担当教員から補足の解説			
<授業方法> 第1回から第4回,第7回・第8回の授業はパワーポイントを使用し教室で講義を行う。 第5回・第6回の授業は白衣を着用し実習室で校内実習(学生同士でバイタル測定)を行う。 第11回～第13回 グループによる演習を行い、第14回・第15回で発表する。			
<成績評価の基準> 筆記試験(80%)と演習への取り組みと発表(20%)で評価する。			
<必携図書> ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術 I, 医学書院 ・山内豊明;フィジカルアセスメントガイドブック 第1版, 医学書院			
<自己学習のポイント及び参考図書> バイタルサインはメカニズムに基づいて根拠を持って実践される技術である。解剖生理学で学ぶ,循環器,呼吸器,生体防御の授業を振り返り,メカニズムと関連させながら授業を受けるとよい。また,解剖生理や当該技術については,医学映像セレクトの視聴「看護 わかる!できる!バイタルサイン測定 体温・意識」「呼吸・脈拍・血圧援助を考える」上記を校内実習前後に視聴し,技術の予習復習に活用すること。			
<履修上の注意点> ・第5回・第6回の校内実習は代替が必要な授業である。			
<学生に向けてのメッセージ> 基礎看護学実習 II では初めて患者さんにバイタル測定を行います。バイタルサインは患者さんの状態を観察しその後のケアに繋げていく上で非常に重要な技術です。しかし,正しい値は正しい技術でなければ得られません。また,技術は迅速かつ正確に,患者さんにとって苦痛が少ないことも重要です。繰り返し練習をしていきましょう。			

科目名	看護過程	授業形式	講義 演習
履修年次	1年 後期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	押領司民	実務経験と 関連資格	看護専任教員 看護師 看護学博士 病院勤務歴6年
<到達目標> 1.看護を具体的に実践するための方法論の1つである看護過程の概要と意義について学ぶ。 2.看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する。 3.演習を通して看護過程を展開する具体的な方法を個人およびグループワークを通して経験し考えることができる。			
<授業内容> 第1回・第2回 1.講義「看護過程とは 看護過程と関連図について」 2.電子カルテ「メディアイ」の説明 / 事例紹介 4H 課題:事例患者に関する「自己学習」、「情報整理用紙Ⅱ」、「関連図」の作成 第3回 1.事例を理解するための補足講義や質問対応 2.アセスメントの指定 3.講義「看護問題、目標、計画の書き方」 2H 課題:事例患者に関する「情報整理用紙Ⅱ」、「関連図」の修正 「アセスメント」「看護問題、目標、計画」の作成 第4回・第5回 担当教員からの課題の個別指導と自己学習 4H 課題:事例患者に関する「情報整理用紙Ⅱ」、「関連図」、「アセスメント」 「看護問題、目標、計画」の修正 第6回 個人で作成した事例患者についての「アセスメント」、「看護問題、目標、計画」を グループ内で発表し、他者のレポートから学びを得る 2H 第7回・8回 1.講義「実践、結果、評価の書き方」 3H			
<授業方法> 第1回～第3回、第7回～第8回は、講師作成の資料を活用し講義形式で行う。 第3回は提出された情報整理用紙の内容を返却すると共に、記載内容のポイントを講義した後、個人作業で演習を行う。 第4回・第5回は、提出されたレポートについて、担当教員による個別のレポート指導を行う。 第6回は、これまで作成してきたレポートをグループ内で検討する。			
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。			
<必携図書> ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院			
<自己学習のポイント及び参考図書習> 疾患別 看護過程セミナー 上巻 サイオ出版 疾患別 看護過程の展開(第5版) 学研 病気がみえる Vol.4 呼吸器 MEDIC MEDIA			
<履修上の注意点> ・講義と講義の間にレポート提出がある。レポート提出は期日内に提出すること。 ・本講義の内容は、基礎看護学実習Ⅲ、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、老年看護学実習Ⅱなど、看護過程を展開する ・実習に直接影響する。そのため、本講義が履修出来ない場合は、これらの実習への参加が許可されない場合もある。			
<学生に向けてのメッセージ> 実習で患者さんから学ぶ看護学生として、誠実に課題に取り組んで欲しいと願っています。			

科目名	看護の探求		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	2単位(45時間)
授業担当者	押領司民 小泉京子	実務経験と 関連資格	押領司(看護専任教員 看護師 看護学博士 病院勤務歴6年) 小泉(前副学院長 認定看護管理者 病院勤務23年)	
<到達目標>				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究に関する基礎知識を学び、研究的視点を持つことができる。 2. 日常の看護実践を科学的、理論的に分析するための基礎的な手法を知る。 3. プレゼンテーションの方法を知り、3年次のケースレポートの発表に活かすことができる。 4. 文章読解力、論理的思考力、表現力を身につけ、自己の考えを適切に表現するための学習方法を学ぶ。 				
<授業内容>				
<p>〔看護研究〕 30H 講師:押領司民</p> <p>第1回・2回 看護研究の定義と目的 研究課題に関するブレインストーミング 研究計画書の書き方 4H</p> <p>第3回・4回 ケーススタディの査読 自分の文章の査読 学会の質問内容の確認 4H</p> <p>第5回～第8回 山梨民医連学術運動交流集会参加 8H</p> <p>第9回～14回 卒業研究発表会 12H</p> <p>第15回 プレゼンテーションについて 2H</p> <p>〔文章表現〕 15H 講師:小泉京子</p> <p>第16回 レポート作成のポイント 2H</p> <p>第17回 思考の単位としての文 接続詞で思考の流れをつくる 2H</p> <p>第18回 事実(観察)と推論 患者のありのままを記録する 2H</p> <p>第19回 文章を批判的に読む 2H</p> <p>第20回 問いを立てる 2H</p> <p>第21回 レポート作成 序論・本論・結論 段落のつけ方 2H</p> <p>第22回 レポートの推敲と自己点検評価 3H</p>				
<授業方法>				
<p>看護研究</p> <p>第1～4回、第15回は講師作成のパワーポイントと教科書を用いて、講義形式とグループワークですすめる。</p> <p>第5～8回の山梨看護学会は、山梨県看護協会主催の学会に参加をする。</p> <p>第9～14回の卒業研究発表会は、3年生の卒業研究発表会に参加する。</p> <p>文章表現</p> <p>第16～21回は講師作成の資料をもとに講義形式と演習(個別及びグループ)を交えて行う。</p> <p>第22回は自己で作成した文章を推敲し、自己評価した上で提出する。</p>				
<成績評価の基準>				
授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。				
<必携図書>				
・系統看護学講座 別巻 看護研究, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
・井下千以子;思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版, 慶應義塾大学出版会				
<履修上の注意点>				
第9～14回の卒業研究発表会は、2日間に分けて開催される。欠席時は代替が必要となるため、注意すること。				
<学生に向けてのメッセージ>				
<p>看護研究 一つの研究で明らかになることはわずかかもしれません。しかし、研究を積み重ねることによって、世界中の多くの患者さんの苦悩を軽減することができます。また、研究に関するライフテーマを持つことは、看護師としての人生をより有意義にするでしょう。</p> <p>文章表現 看護学生には沢山のレポート課題が出されます。書くのが苦手という人も思考の流れや主張の明確化を意識することできっと文章に変化が現れるはずです。</p>				

科目名	私たちの地域と生活		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	宮川江里	実務経験と 関連資格	看護専任教員 看護師 病院・訪問看護ステーション勤務8年	
<到達目標>				
<p>1. 地域看護とは何かを理解し、対象者は地域で生活する全ての人々であること、対象者の健康問題を科学的な視点で捉え、多様な健康要求を把握するための基礎的な看護について理解する。</p> <p>2. ケアの対象である家族の特徴について理解する。</p>				
<授業内容>				
<p>第1回 地域・在宅看護論の概要</p> <p>第2回 地域を知ろう</p> <p>第3回・第4回 演習「地域リサーチ」 自分の地域を歩き、リサーチをする</p> <p>第5回・第6回 「地域リサーチ」の発表</p> <p>第7回 生活とは</p> <p>第8回 地域で生活する人々の理解</p> <p>第9回 家族とは</p> <p>第10回・第11回 社会と家族の変化</p> <p>第12回・第13回 家族看護 家族の理解と支援</p> <p>第14回・第15回 暮らしを支える地域・在宅看護</p>				
<授業方法>				
<p>第1.2回は、国民衛生の動向を用いた講義とグループワークを行う。</p> <p>第3.4回は、各自でフィールドワークを行う。個人でまとめて発表を行う。</p> <p>演習以外は、は講義形式ですすめる。</p>				
<成績評価の基準>				
授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。				
<必携図書>				
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤, 医学書院 ・厚生指標増刊 国民衛生の動向, 一般財団法人厚生労働統計協会 				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
<p>演習は、自分が住んでいる地域を実際に歩いて、その地域の特性を知る。</p> <p>地域に住んでいる人と直接話をしたり、地域の特徴を写真に撮り、レポートにまとめて発表する。</p>				
<履修上の注意点>				
教科書、国民衛生の動向、色鉛筆またはマーカーを持ってくる。				
<学生に向けてのメッセージ>				
<p>地域看護は看護の原点です。その地域看護を学ぶ前に、まずは、しっかりと「地域」とは何か概念の理解が重要です。そのため、講義では地域とは何かを考え、次に、地域と生活、地域と看護へとのつながり明確にしていきます。地域とは？と自らの言葉で語れることを目指します。これからさらに求められ、期待される地域看護を共に学びましょう。</p>				

科目名	地域の暮らしを支援する法と制度		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	鈴木美緒 鈴木勝利	実務経験と 関連資格	鈴木美緒(看護専任教員 保健師 病院勤務歴6年) 鈴木勝利(笛吹市社会福祉協議会 障害者地域活動支援センターふえふき 相談支援専門員・社会福祉士・精神保健福祉士)	
<到達目標>				
1.地域保健医療福祉活動について学び、そこでの看護師の役割を理解する 2.地域保健医療福祉活動の現状と課題について学ぶ 3.地域看護を支える制度や社会資源を説明できる				
<授業内容>				
第1回 地域看護の理念 地域看護を促す諸理念 地域保険医療福祉活動の理解 予防の概念 2H 第2回 自分が住んでいる地域の「広報」の整理から地域 保健医療福祉活動の特徴を抜き出す 2H 第3回 「広報」から地域で実際に行われている保健医療福祉活動の背景を個人で調べる 2H 第4～5回 「広報」から地域で実際に行われている保健医療福祉活動の背景をグループで調べる 第6回・第7回 地域の保健活動のグループワークの発表 4H 第8～9回 地域療養を支える制度 ①医療保険制度・介護保険②障がい者・難病に関する法制度 4H 第10回 地域の福祉活動 障害について 2H 講師:鈴木勝利 第11回・第12回 地域の福祉活動 社会福祉協議会の活動 4H 講師:鈴木勝利 第13回・第14回 地域の医療活動 地域で行われている実際の医療活動の内容を知る 4H 第15回 地域保健医療福祉活動のまとめ 2H				
<授業方法>				
下記以外には講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。 第3～5回は個人演習とグループワークを行う 第10.11.12回特別講義として、社会福祉協議会の方の講義を受ける。				
<成績評価の基準>				
授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。				
<必携図書>				
・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤, 医学書院 ・ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障2 公衆衛生, メディカ出版				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
演習は、自分が住んでいる地域を実際に歩いて、その地域の特性を知る。 地域に住んでいる人と直接話をしたり、地域の特徴を写真に撮り、レポートにまとめて発表する。				
<履修上の注意点>				
・自分の地域で実際に行われている保健医療福祉活動を知る。 ・教科書「地域療養を支えるケア」を読む。 ・「厚生指針増刊 国民衛生の動向」一般財団法人厚生労働統計協会				
<学生に向けてのメッセージ>				
地域の保健・医療・福祉活動について知り、地域で生活している療養者の生活を見る視点を磨きましょう。				

科目名	地域で生活する人の心の理解		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	押領司 民 齊藤 徳仁	実務経験と 関連資格	押領司(看護専任教員 看護師 看護学博士 病院勤務歴6年) 齊藤 徳仁(臨床心理士)	
<到達目標> 1. 「精神の健康」に関する基本概念を理解し、精神の健康を保障していく精神保健の意義を学び、看護の役割について考える。				
<授業内容> 第1回 精神看護学で学ぶこと(序章) 2H 第2回 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿(第7章) 2H 第3回 「精神(心)の捉え方」(第1章) 2H 第4回 「家族と精神(心)の健康」(第3章) 2H 第5回 「くらしの場と精神(心)の健康」(第4章) 2H 第6回・7回 「現代社会と精神(心)の健康」(第6章) 3H				
<授業方法> 講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式で進める。				
<成績評価の基準> 100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書> ・新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論 精神保健, メヂカルフレンド社				
<自己学習のポイント及び参考図書> ・医学映像セレクトの視聴 「看護 目で見る精神看護 精神科医療と福祉の現状(Vol.1)」				
<履修上の注意点> ・脳の構造と認知機能について、解剖生理学の授業の内容を復習しておくこと。				
<学生に向けてのメッセージ> 精神看護学領域の対象は、乳幼児期から老年期まで全てのライフサイクルの人々です。そのため、健康な人々を含めた全ての人々の精神の健康を保障するための精神保健の意義と看護師の役割を学びます。				

科目名	健康を害した人への看護Ⅱ		授業形式	講義
履修年次	2年 前期		単位数(時間数)	1単位(20時間)
授業担当者	新藤裕治 小泉京子 鈴木美緒 成島美里	実務経験と 関連資格	新藤 (山梨県立大学看護学科基礎看護学講座助教) 小泉 (前副学院長 認定看護管理者 病院勤務23年) 鈴木・成島 (看護専任教員)	
<到達目標> 各疾患の病態生理, 症状, 経過, 検査, 治療法を理解し, それらに必要な看護について学ぶ。 ①内分泌疾患看護 ②脳神経疾患看護 ③血液疾患看護 ④腎・泌尿器疾患看護				
<授業内容> 内分泌看護 6H 講師:鈴木美緒 第1回 主な内分泌器官とその働き 内分泌疾患患者の看護(第6章) 第2.3回 脂質異常症・痛風 脂質異常症患者・痛風の治療と看護(第5・6章) 脳神経疾患看護 8H 講師:新藤裕治 第4回・第5回 脳神経疾患看護概論, 脳神経疾患理解に必要な身体・心理・社会的な特徴 第6回・第7回 主な脳神経疾患の概要(治療, 症状, 疾病管理について), 脳神経疾患患者への看護(急性期) 血液疾患看護 8H 講師:小泉京子 第8回・第9回 血液疾患の特徴 第10回・第11回 血液・造血器機能障害患者の看護 腎・泌尿器疾患看護 8H 講師:成島美里 第12回・第13回 医療の動向と看護 腎疾患患者の看護(第1章)(第6章) 第14回・第15回 透析療法(第6章)				
<授業方法> 教科書及び授業で配布する資料を使い, パワーポイントに沿って講義する。				
<成績評価の基準> 100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書> 黒江ゆり子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6, 内分泌・代謝, 医学書院 井出隆文他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7, 脳・神経, 医学書院 飯野京子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学4, 血液・造血器, 医学書院 大東貴志他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学8, 腎・泌尿器, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> 田中越郎他「系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進2病態生理学」医学書院 脳神経疾患看護では, 復習に重点を置き, 講義において理解できなかった箇所をまとめることを勧める。 脳神経疾患看護の講義では, 「病気がみえる7脳・神経(メディックメディア)の図・表を使用していることが多いため, 復習時に参考図書として用いると効果的な復習が可能となる。				
<履修上の注意点> 医学映像セレクトの視聴 内分泌看護:「看護 生体のしくみ(第3版)vol.17 ホルモンのしくみ vol.18ホメオスタシスのしくみ」 脳神経看護:「看護 看護のための病態生理とアセスメント <知覚・運動>高次脳機能障害(vol.1.3)」 血液看護:「看護 生体のしくみ(第3版)vol.9 血液のしくみ」 腎看護:「看護 ME機器の知識と技術vol.7, 血液浄化装置」				
<学生に向けてのメッセージ> ・内分泌疾患と代謝疾患は慢性疾患の代表的なものであり長期の管理が必要です。慢性疾患看護について学びを深めましょう(鈴木) ・解剖生理学Ⅰ(脳)、解剖生理学Ⅱ(血液)の学習を基盤としているため, 復習し臨むこと(新藤・小泉) ・高齢化に伴い, 腎不全を発症する患者が増加しています。臨床でもよく見られる疾病であり, 即実習にも役立つ内容です。 解剖生理学Ⅳ、疾病論Ⅳの学習をしっかりと復習し、看護について一緒に学んでいきましょう(成島)				

科目名	周手術期看護・がん看護		授業形式	講義
履修年次	2年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	山田章子・小池賀津江 名取明・林幸恵 加藤あゆみ・高木大志 深澤周平・篠原真由美	実務経験と 関連資格	山田(山梨大学大学院総合研究部 基礎・臨床看護学講座 講師) 小池(富士吉田市立病院がん専門看護師) 名取(甲府共立病院 手術室看護師) 林(甲府共立病院 皮膚・排泄ケア認定看護師) 加藤、高木、深澤、篠原(甲府共立病院 外科病棟看護師)	
<到達目標>				
周手術期看護	1. 外科的治療の特徴を理解し必要な看護を学ぶ。 2. 手術によっておこる生体反応を学び、術後合併症の予防に向けた看護を学ぶ。 3. 手術に向う患者の心理を理解する。 1外科看護 2運動器疾患看護 3周手術期看護			
がん看護	1. 我が国のがん患者を取り巻く状況を理解し、どのようなケアが必要になるかを学ぶ 2. がんの病態と臨床経過、治療方法とその看護について理解する 3. がん患者の身体的・精神的・社会的苦痛を理解し、根拠に基づいた看護を学ぶ			
<授業内容>				
〔周手術期看護〕 22H				
第1回	外科看護総論		2H	講師:加藤あゆみ
第2回	手術室看護		2H	講師:名取 明
第3回 第1章	肺癌切除術の看護 乳房切除術の看護		4H	講師:山田章子
第4回 第3章	食道手術患者の看護		2H	講師:山田章子
第5回	胃切除術患者の看護		2H	講師:深澤周平
第5回	ストマ増設患者の看護		2H	講師:林 幸恵
第6回	肝がん患者の看護 胆嚢炎、膵臓癌患者の看護		4H	講師:山田章子
第7回	イレウス患者の看護 大腸癌患者の看護		2H	講師:高木大志
第8回 第5章	整形外科看護:骨折について		2H	講師:篠原真由美
〔がん看護〕 8H				
第9回 第1章	がん医療の現在と看護、第3章 がん患者の看護		2H	講師:小池賀津江
第10回 第4章	がんの治療 手術療法、薬物療法、放射線療法について		2H	講師:小池賀津江
第11回 第5章	がん治療に対する看護 手術療法、薬物療法、放射線療法、造血幹細胞移植		2H	講師:小池賀津江
第12回 第6章	がん治療の場と看護		2H	講師:小池賀津江
<授業方法>				
教科書やパワーポイントを使用し講義形式で授業を行います。				
<評価方法の詳細>				
100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書>				
周手術期看護:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 医学書院				
がん看護: 系統別看護講座 別巻 がん看護学 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
<履修上の注意点>				
講師が複数で担当するため講義資料はファイリングし講師と授業内容がわかるようにしておきましょう。 外科実習で活用できるよう整理しておくこと。				
<学生に向けてのメッセージ>				
周手術期看護 手術は生体への侵襲を伴う治療法です。手術により身体の変容がもたらされたり、術後の経過によっては社会生活や精神面へ大きな影響を受けたり、予後が左右されることも少なくありません。その家族が抱く不安もまた計り知れません。そんな時看護師の果たす役割は きわめて大きいものです。治療に対する不安や苦痛を抱える患者やその家族の安全・安楽を保障するための看護を追求していけるよう興味を持ち学んでほしいと思います。 がん看護 我が国ではがんの罹患者が増え、死亡者数も増加すると予測されています。今やがん患者さんは治療をしながら生活する人となっています。本授業を通して、がん患者さんの看護を学ぶことは、看護の本質に迫れる貴重な機会です。大いに学びましょう。				

科目名	老年期にある人の理解		授業形式	講義 演習
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	橋本晶子 神田藍 坂井美紗	実務経験と 関連資格	橋本(山梨県立大学看護学部講師 老人看護専門看護師) 神田(病院勤務 老人看護専門看護師) 坂井(看護専任教員 看護師 病院勤務歴4年) 当事者	
<到達目標>				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の老化に伴う各種機能の変化をつかみ、発達し続ける存在としての老人観を学ぶ。 2. 対象の生活史をとらえ、人権を尊重する知識と態度を養う。 3. 対象の健康をとりまく家族・地域・社会環境から捉え、人権を守り、よりよく生きるための保健・医療・福祉政策について学ぶ。 				
<授業内容>				
第1回 第1章 老いるということ、老いを生きるということ(C②発達と成熟以外) 2H 橋本晶子・神田藍 第2回 第2章 超高齢社会と社会保障 A超高齢社会の統計的輪郭 2H 橋本晶子・神田藍 第3回 第4章 高齢者のヘルスアセスメント Aヘルスアセスメントの基本 2H 橋本晶子・神田藍 第5回 第4章 高齢者のヘルスアセスメント B身体に加齢変化とアセスメント 2H 橋本晶子・神田藍 第6回 第4章 高齢者のヘルスアセスメント B身体に加齢変化とアセスメント 2H 橋本晶子・神田藍 第7回 第4章 高齢者のヘルスアセスメント B身体に加齢変化とアセスメント 2H 橋本晶子・神田藍 第8回 第5章 高齢者の生活機能を整える看護 2H 橋本晶子・神田藍 第9回 第5章 高齢者の生活機能を整える看護 2H 橋本晶子・神田藍 第10回 高齢者の生きてきた社会 2H 坂井美紗 第11回 当事者授業(戦争体験を聴く) 2H 当事者 第12回 当事者授業(戦争体験を聴く) 2H 当事者 第13回 高齢者疑似体験(演習) 2H 坂井美紗 第14回 高齢者疑似体験(演習) 2H 坂井美紗 第15回 第3章 老年看護のなりたち 2H 坂井美紗				
<授業方法>				
講師作成のパワーポイントを用いて教科書等を参照しながら講義形式ですすめる。				
<成績評価の基準>				
100点の筆記試験を以て評価する。				
<必携図書>				
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 老年看護学, 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論, 医学書院 ・厚生指針 増刊 国民衛生の動向 2023/2024 				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
老人保健, 社会制度, 社会問題に関する新聞やメディア, インターネットの記事を日頃から関心を持って意識的に確認すること。(例: 高齢化社会, 介護保険制度, 孤独死, 高齢者の自殺, 延命治療など)				
<履修上の注意点>				
配布された資料はわかりやすいようにファイリングし整理しておくこと。 第11.12回の当事者授業(戦争体験)、第13.14回の高齢者疑似体験は代替が必要な授業である。				
<学生に向けてのメッセージ>				
老年期にある人々がどのような歴史の中で生活をし、日本の経済を支えてきたのか、そして加齢に伴う変化を遂げているのか、一般的な知識について学びます。また超高齢社会を迎え、高齢者を取り巻く環境は変化しています。高齢者の権利、高齢者にとって生活しやすい社会とはどのようなものなのか一緒に学びましょう。また、高齢者の方々を生活の視点で捉えることができるよう、豊かな高齢者観も育てていきましょう。				

科目名	老年期にある人への看護		授業形式	講義 演習
履修年次	2年 前期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	坂井美紗 山本佳香 ケアマネジャー	実務経験と 関連資格	坂井(看護専任教員 看護師 病院勤務歴4年) 山本(認知症認定看護師) ケアマネジャー	
<到達目標>				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の健康問題の特徴をふまえ、よりよく生きるための看護の役割を学ぶ。 2. 老年期の発達を踏まえ、老年期における疾病とその過程の特徴を学ぶ。 3. 高齢者の医療欲求を実現させるための民主的集団医療チーム、および看護の役割を学ぶ。 				
<授業内容>				
第1回 老年症候群と看護(概要・導入) 2H 第2回 老年症候群と看護(急性期疾患に付随する症候・慢性期疾患に付随する症候) 2H 第3回 老年症候群と看護(ADLの低下に合併する症候・フレイル) 2H 第4回 高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 2H 第5回 高齢者の疾患の特徴と看護(精神・神経疾患) 2H 第6回 高齢者の疾患の特徴と看護(循環器系・呼吸器系の疾患) 2H 第7・8回 高齢者の疾患の特徴と看護(認知症) 4H 認知症認定看護師 第9回 高齢者の疾患の特徴と看護(皮膚の疾患) 2H 第10回 高齢者の疾患の特徴と看護(感覚器の疾患) 2H 第11回 高齢者の疾患の特徴と看護(内分泌・感染症) 2H 第12回 高齢者の退院支援と生活の場での看護 2H 第13回 高齢者の退院支援と生活の場での看護 2H ケアマネジャー 第14・15回 高齢者看護を考える(演習) 4H				
<授業方法>				
教科書及び授業で配布する資料を使い、パワーポイントに沿って講義する。				
<成績評価の基準>				
100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書>				
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 系統看護学講座 専門分野 老年看護学				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
老年の週末課題を持参、振り返りに使用しましょう。不足している内容やポイントは追記、実習ですぐ使える資料にしましょう。また、それぞれの疾患や症状に合わせた看護を学びます。老年期にある人に必要な看護とはなにか、自分なりに考えながら学習しましょう。				
<履修上の注意点>				
配布された資料はわかりやすいようにファイリングして整理しておく。				
<学生に向けてのメッセージ>				
一年次に「老年期にある人々の理解」の授業や老年看護学実習Ⅰを通じて、健康な老年期にある人々の加齢に伴う変化や取り巻く環境、生活実態などについて学習しました。その学びを基礎として、本授業では老年期にある人々に起きやすい症状や疾患とその看護について学びます。人生の先輩である老年期にある人々がより良く生活していくために私たちにほんのなにかができるか一緒に考え、学んでいきましょう。				

科目名	子どもの人権と社会	授業形式	講義 演習
履修年次	1年 後期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	藤本未央	実務経験と 関連資格	看護専任教員 保健師 養護教員1種 病院内科・小児科勤務歴5年
<到達目標>			
<ol style="list-style-type: none"> 子どもと家族を取り巻く社会を理解し、子どもが健やかに成長していくための環境について考える。 子どもの権利条約、児童憲章などの学習を通して子どもの人権について学ぶ。 			
<授業内容>			
第1回・第2回	子どもと家族を取り巻く法律 4H	児童福祉法, 予防接種法, 児童虐待防止法, 臓器移植法	
第3回・第4回	家族の特徴とアセスメント 4H	小児と家族の諸統計, 家族とは, 家族の機能, 子どもの医療費	
第5回・第6回	学校保健・学童期の健康問題 4H	肥満, 齲歯, 視力低下, 不登校, いじめ	
第7回・第8回	小児の人権について 3H	子どもの権利条約, 児童憲章 海外の子どもの生活を知る	
<授業方法>			
<p>第1回～第6回は講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。 第7回・第8回はグループごと演習・発表を行う。</p>			
<成績評価の基準>			
100点の筆記試験を以て評価する。			
<必携図書>			
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論小児臨床看護総論, 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論, 医学書院 			
<自己学習のポイント及び参考図書>			
・厚生労働省の指標増刊 国民衛生の動向2022/2023, 一般財団法人厚生労働統計協会			
<履修上の注意点>			
<p>新聞や雑誌, ニュースなどで, 小児に関する情報は, 日常関心をもって情報を得る。 この講義内容は, 2年次の小児看護学実習時にも活用できるため, まとめて整理しておく。</p>			
<学生に向けてのメッセージ>			
<p>子どもは擁護され, 平等に医療や学習や生活が守られていなければならない存在です。しかし, 実際の子どもたちのおかれている社会や健康問題にはどのようなものがあるのでしょうか。一緒に学びましょう。また, 子どもを対象としたボランティアなどもあるため, 積極的に参加し, 子どもを知っていけると良いです。</p>			

科目名	子どもの病気	授業形式	講義
履修年次	2年 前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	鶴田 真 鎌田 康弘 若松 宏実 上嶋 准嗣 大島 智恵 県立中央病院看護師	実務経験と 関連資格	鶴田・鎌田・若松 (甲府共立病院小児科医) 上嶋 (甲府共立病院小児科非常勤医師) 大島(山梨大学医学部附属病院 造血細胞移植コーディネーター) 県立中央病院小児科看護師
<到達目標>			
1. 小児期に特徴的な疾患や障害について、その症状と発症および経過の特性、治療及び検査について理解する。			
<授業内容>			
第1回・第2回	呼吸器疾患(第7章) 循環器疾患(第8章)	4H	講師:病院看護師
第3回	神経疾患(第13章)	3H	講師:上嶋 准嗣
第4回・第5回	アレルギー疾患・皮膚疾患・感染性疾患 (第5・15・6章)	3H	講師:県立中央病院看護師
第6回	代謝疾患(第3章)	2H	講師:県立中央病院看護師
第7回	事故・外傷・誤飲/誤嚥・溺水・熱中症(第16章)	2H	講師:病院看護師
第8回	新生児 低出生体重児(第2章)・染色体異常・先天異常(第1章)	2H	講師:鎌田康弘
第9回	内分泌疾患(第4章)	2H	講師:鶴田 真
第10回	腎・泌尿器疾患・生殖器疾患(第12章)	2H	鶴田 真
第11回	鼻咽頭疾患(第17章)	2H	講師:病院看護師
第12回	消化器疾患(第9章)	2H	講師:鎌田康弘
第13回・第14回	血液造血疾患(第10章)・悪性新生物疾患(第11章)	4H	講師:大島智恵
第15回	精神疾患(第18章)	2H	講師:若松 宏実
<授業方法>			
全ての授業を講義形式で行います。			
<評価方法の詳細>			
授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験を受ける資格が得られる。 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。			
<必携図書>			
奈良間美穂他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論」医学書院			
<自己学習のポイント及び参考図書>			
<ul style="list-style-type: none"> ・坂井建雄他「系統看護学講座 専門分野 人体の構造と機能1 解剖生理学」医学書院 ・堺章「改訂 目で見るからだのメカニズム」医学書院 ・北里大学病院看護部「NeW 臨床略語辞典」Gakken 			
<履修上の注意点>			
・多くの講師による講義となるため、資料整理を行い、学習に取り組んでください。			
<学生に向けてのメッセージ>			
小児期特有の疾患も多くあります。子どもの病気の理解を深め、小児看護学実習Ⅱで活かしてほしいと思います。			

科目名	対人関係論	授業形式	講義 演習
履修年次	1年 前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	松井紀和 渡邊 裕 河西光子	実務経験と 関連資格	松井紀和(日本臨床心理研究所所長) 渡邊裕(看護専任教員 看護師 病院勤務10年) 河西(副学院長 看護師 病院勤務歴8年)
<到達目標>			
<p>1. グループダイナミクスセミナー 自己を開放し、自由に自己表現していくことを通し、自己理解、他者理解を深める。</p> <p>2. 再構成 コミュニケーションに関する理論とその技法を理解し、援助的人間関係のあり方について学ぶ。</p> <p>3. コミュニケーション 患者の要求を正しく認識し、専門職業人としての看護技術が提供できる基礎的能力を養う。</p>			
<授業内容>			
<p>[グループダイナミクスセミナー] 14H 講師:松井紀和 看護師は集団として患者に関与するグループワーカーとしての役割を担います。特に精神医療の場では、多種多様なグループ活動がなされています。看護師は、その中心的なメンバーとして、グループの力動に習熟し、グループ活動を推進させる役割をもちます。授業を通して、集団における自己の役割を意識しましょう。以下に過去のセッション内容を記します。年度により授業内容の変更があります。 セッション1自己紹介 セッション2絵を使った表現 セッション3楽器を使った表現 セッション4歌と踊りを使った表現 セッション5身体で意思を伝える セッション6 共立高等看護学院に入るまでの経過を話す</p> <p>[コミュニケーション・再構成] 16H 講師:河西光子 第8回 コミュニケーションワーク 2H 第9回 コミュニケーションとは、再構成とは 2H 第10回・第12回 再構成演習 4H 第11回・第15回 関係構築のためのコミュニケーション 4H 第16回・第17回 効果的なコミュニケーション アサーティブネス 4H</p>			
<授業方法>			
<p>1. グループダイナミクスセミナー 2日かけて他施設にてグループダイナミクスを行う。2021年度の授業会場は小瀬スポーツ公園のサブアリーナで実施した。</p> <p>2. 再構成 第8回は講義形式。第9回・10回は実習室で白衣を着用してロールプレイを実施した後、教室で再構成を行う。</p> <p>3. コミュニケーション 講義と演習形式で行う。</p>			
<成績評価の基準>			
授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。			
<必携図書>			
・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I, 医学書院			
<自己学習のポイント及び参考図書>			
<履修上の注意点>			
<p>1. グループダイナミクスセミナー 服装:軽装で動ける服装(ジャージやトレーナーなど)。スカート、ハイヒールやサンダルは不向き。 持ち物:昼食と筆記用具(書くもののみでよい。ノート類は不要)、名札 館内はすべて禁煙。セッション中は飲食は禁止。セッション中はスマホを持たない。かばんにしまうこと。</p> <p>2. 再構成 ロールプレイ及び再構成は甲府健康友の会の会員が患者役になる。身だしなみに注意すること。 また、第9回と第10回を欠席した場合は、代替え授業が必要となるため、注意が必要である。</p>			
<学生に向けてのメッセージ>			
対象者の理解を深め看護師個々が「自分らしい」看護を展開することをめざしています。楽しみながら、自分らしさや、自分らしいコミュニケーションを見つけましょう。			

科目名	医療安全		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	酒井 茉莉耶 野沢 みなり 河野 一也	実務経験と 関連資格	酒井(看護専任教員 看護師 病院勤務歴7年) 野沢(甲府共立病院 医療安全管理室師長) 河野(甲府共立病院安全管理室 感染管理認定看護師)	
<到達目標>				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者や医療従事者自身の安全を守るため、医療事故防止と院内感染防止のための看護技術について学ぶ。 2. 医療事故防止に関する知識を学び、専門職業人として患者の安全を守るための意識と態度を養う。 3. 院内感染予防に関する基礎的な知識の獲得と感染予防に関する技術を確実に獲得する。 				
<授業内容>				
<p>第1回 医療安全と看護の責務 1看護師および看護業務の法的な規定 医療安全施策 1検証:都立広尾病院の事故はなぜ起こったか 2医療安全に関する国の取り組み 3医療事故などの定義・分類 2H</p> <p>第2回 医療事故のメカニズムと防止対策 2H</p> <p>第3回 看護師における安全対策 1看護業務事故発生要因 2医療事故の種類と安全対策 2H</p> <p>第4回 医療安全の取り組みと医療の質の評価 看護業務と事故発生要因 1医療機関における組織としての取り組み 2事故の原因の分析と対策の検討 3看護におけるリスクマネジメントの実際 2H 講師:病院看護師</p> <p>第5回・第6回 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 1感染の危険を伴う病原体への曝露 2院内感染 4H 講師:病院看護師</p> <p>第7回・第8回 やってみようKYT 3H</p>				
<授業方法>				
<p>第1.2.3回講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。</p> <p>第4.5.6回は臨床の看護師の講義および演習となる。</p> <p>第7.8回はグループで演習を行い、発表する。</p>				
<成績評価の基準>				
100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書>				
・ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践2 医療安全, メディカ出版				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
・医療事故に関する新聞, メディアにおいて, 日常から関心を持ち, なぜ, 医療事故が起こったのか自分の考えをまとめておく。				
<履修上の注意点>				
<学生に向けてのメッセージ>				
医療安全は, これまでの歴史の中で創り上げられてきた分野や今もなお進化しています。歴史やメカニズムから医療安全を理解し, これからさらに安全な医療や看護が対象者に提供できるよう, 知識や視点を獲得しましょう。				